



ホーホケキョ

ぼりの山田くん

高畑 勲 監督作品

まつ子	朝丘雪路
たかし	益岡 徹
しげ	荒木雅子
俳句朗読	柳家小三治
特別出演	ミヤコ蝶々

MY NEIGHBORS THE YAMADAS
A GLOBAL STANDARD (FROM JAPAN)

家内安全は、世界の願い。

製作総指揮/徳間康快
製作/氏家齊一郎 東海林隆 マイケル・O・ジョンソン
原作/いしいひさいち(徳間書店) 監修/ヤヅル(徳間書店) ●音楽/矢野麗子
脚本/高畑勲 ●演出/田辺修 百瀬義行 ●プロデューサー/鈴木敏夫
徳間書店・スタジオジブリ・日本テレビ放送網・博報堂・ディズニー提携作品
©1989 しいひさいち・畑事務所・TGNHE
配給/松竹・スタジオジブリ(徳間書店)



作品解説

ホーホケキョ
となりの山田くん

脚本・監督 高畑 勲



いま日本では、グローバル・スタンダードという言葉が流行っています。長引く不況のさ中、規制緩和&ビッグバンで第二の開国をして、世界の基準に日本も適応しようという

わけです。きびしい国際社会の荒波の中で、政治家・企業人はもちろん普通の人までが、日本が置いてけぼりを食らうのではないかという不安と焦燥に駆られています。

浮き足立つ日本。しかし、ちょっと立ち止まって考えてみてください。そんなに浮き足立つ必要が、本当にあるのでしょうか。英語とインターネットを覚えて、あわてて髪を金髪に染めてみたところで所詮は付け焼き刃。日本人がアメリカ人になれるわけじゃありません。温故知新。こういうときこそ、足元にあるこの国「日本」に目を向けてみませんかというのが本企画「ホーホケキョ となりの山田くん」なのです。この国だって捨てたもんじゃない。いいところがいっぱいあったはず。捨てちゃうのはもったいない。テーマは、日本人はこう生きて来たし、いまもこう生きている。これからもこれでいいんじゃない？ です。

合言葉を決めました。“これが日本のスタンダードだ！”ジブリが声を大にして、日本から世界に発信します。

原作はいしいひさいち。朝日新聞朝刊に連載中のみなさんご存じ、5人の山田一家を描く4コママンガです。あらためて家族をご紹介しますと――。

たとえば母・まつ子。悩みといえば晩ご飯の献立くらい。父・たかし。日曜日はパチンコかごろ寝。祖母・しげ。口の悪さは相当のもの。長男・のぼる。何をしてもばつとしない。長女・のの子。かわいいけど大食い。犬のポチ。吠えないし尻尾も振らないしお手もしないけど噛み付く。とまあ、決して偉かったりカッコ良かったりはしません。でも、日本人にありがちな、憎めない人たばかりです。

山田家の人たちは、高邁な目標や大義を掲げてそれを達成すべく必死の努力をしたり、今の私はまだ本当の自分じゃない、と自分探しを始めたりはしません。近代人特有の内面とか自我から発する心の呪縛から自由なのです。なるようになる、そのうちなんとかなるだろうと、歌のフレーズのように「いい加減」に毎日を生きています。

「山田家のひとたちが身近にいてくれるのを感じると、なぜかラクになります。元気が出ます。頬がゆるみ、息がつけて、今日一日もなんとかやって行けそうな気がします」

(高畑監督の企画書より)

脚本・監督は高畑勲。いまさら説明の必要もない、アニメーション映画監督の巨匠。「火垂るの墓」「おもひでぼろぼろ」「平成狸合戦ぽんぽこ」と既成の映画の枠組みを超えた

映画作りに取り組んできた高畑監督は、今回、演出に弱冠33歳の新鋭・田辺修の力を得て、またしても斬新な映画作りに挑戦します。ポイントを3つにしぼると。

まず、ストーリー。4コママンガのテンポ、リズムを生かしつつ長編映画化するにはどうしたらいいか。高畑監督が辿りついた答えは、誤解を恐れずに断言するなら、ストーリーを無くす、でした。エピソードの積み重ねだけで映画全体を構成しようという試みです。

次にキャラクター。今までのジブリ作品とは大きく異なり、いしいひさいちの原作に極めて近い、非常に単純化されたキャラクターです。背景もそれに合わせて大変シンプル。しかし、キャラクターの動きはいつも以上のジブリ。緻密にして極めてリアルです。たとえば、あの短い脚でどうやって畳に座るのか。しかも不自然でなく。ちなみに作画数は、あの「もののけ姫」を超える15万枚です。

そして画面全体が水彩画風であること。ジブリは今回から、セルを一切使わない、フルデジタル処理に踏み切りましたが、ただ単に従来の工程をコンピューター化したものではありません。高畑監督の指示のもと、この作品のテーマにふさわしくて新しいデジタルならではの技法をと、試行錯誤した結果、まるでひとりの人間がすべての絵を描いたような、「動く水彩画」ともいべき画面作りに成功しました。不思議な暖かみと懐かしさ、手作りの感触はこの作品のテーマとも合致しています。

音楽は矢野顕子。いま、この日本で「元気な曲」を書ける人といったら、この人をおいて他にいないでしょう。今回は映画音楽初挑戦で、独特の自由なピアノ演奏と歌唱が、家族の暖かさを表現します。

「山田くん」の世界は、ファンタジーや冒険物語によくある、豪華に作り上げられた映像マジックとは正反対です。一見単純素朴、しかし、徹底的なリアリズムに根差したアニメーションの存在感が、生きることと人生そのものへの大きな感動を生み出すとする大野心作なのです。

今、日本から世界へ。

これが日本のスタンダードです！ A Global Standard (from Japan).

家内安全は、世界の願い。

'99年7月超拡大ロードショー！

前売鑑賞券絶賛発売中！

一般券1600円/学生券1300円/ペア券(お二人で)3000円

丸の内ピカデリー1 03(3201)2881	東 03(3541)2711	劇 03(3352)1771	新宿ピカデリー1 03(3209)6180	新宿ジョイシネマ1 03(3462)2539	渋谷ジョイシネマ 03(3986)3713	池袋シネマ・ロサ
上野セントラル1 03(3832)0057	横浜シネマリン 045(261)1007	川崎チネグランテ 044(211)6125	大宮オリンピア 048(644)5496	船橋らぼーとセントラル 047(431)0088	柏 0471(63)0760	松竹